

提携米通信

2018年11月号・黒瀬農舎

大きな減収だけは免れ、稲刈り作業無事終わりました。

今年の稲刈りは先月・10月21日に無事終わりました。

今年は、全国各地大いに荒れた天候だったので、収穫作業中の天候を心配していましたが、例年以上の好天が続き、楽に作業がこなせました。

収穫量の方は、先月号で報告したように、当地の生産者は誰もが「今年は、大豊作間違いなし」

稲刈りも終盤戦に入りました。稲刈り期間中の天候は予想以上に好天に恵まれ順調に進みました。2018.10.21撮影

と、稲刈り直前の田圃の様子から大いに期待していたのですが、実際に鎌を入れて見ると、この期待は見事に裏切られました。予想と実際が異なることは時にはありますが、付近の生産者は「こんなに違ったことは珍しい。」と、みんな驚いています。

中でも、多収穫を目指した栽培を行った生産者の田圃では、特に期待予想と実際の差が多かったようです。

我が農舎の場合は、喜んでいいのかどうか、判りませんが、元々多収量を求めない栽培です。その差は少なく最終的には平年から1割程度の減収で済みそうです。

稲刈りが終わると直ぐにブナ植えの準備や暗渠施行、それと年末の切餅に使う原料モチコメの糲摺りなど仕事が目白押し。このように健康で元気に仕事ができていることは感謝です。

でも、数年前までは、日中は田圃で働いた後でも、ほとんど毎日、1時過ぎ、時には3時過ぎまでも本を読んだり、パソコンが日課でしたが、75歳になった今は、夕食、晩酌後は8時頃には早々とベットに向かう毎日になりました。体力の衰えをつくづく感じます。

また、常々、頭は悪くとも眼は自慢でしたが、いよいよ視力が落ち「要部品交換」の宣託。12月には白内障 レンズを入れることになりました。

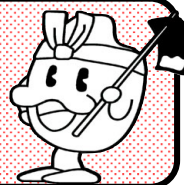
提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大湯村西1丁目4の7

黒瀬 正・友基

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887



★我が農舎は、電話受付の専任スタッフはおりません。日中は倉庫作業等で留守電受けが多くなりますが、ご了承ください。

★電話は、日祭日や、夜間もOKです。

★新米のご贈答利用も宜しく願います。

E-mail: akita@kurose.com Web: 提携米 黒瀬農舎

検索

- ★黒瀬農舎からの返信メールが自動的に迷惑メールフォルダに分類されていることがあるようです。返信のメールが届かない場合は迷惑メールフォルダの確認やメールの設定をご確認下さい。
- ★宅配便運賃の値上がりに伴い、複数の運送会社を使うことに致しました。そのため、出荷日/サイズ/お届け先によっては、以前(前回)と運送会社が異なることがあります。ご了承下さい。

作況指数と実収穫量の差 / コスト削減多収穫の罪

今年のお米の収穫量は、当地同様に、関東も北陸も北海道も芳しくないようです。

一番の原因は、不順な天候によります。

お米の収量は、国が作況指数調査を行い公表していますが、直近の公表指数は9月15日現在の調査データで北海道が90の「不良ランク」になっただけで、他は全国すべて「やや不良」から「やや良」で、全国平均は100の「平年並」と公表されています。

しかし収穫を終えた生産者段階では、ほとんどの地域が「1割から2割の減収」。作況指数は80前後、良くて90だと不満の声が多く、実際にもお米の市況も上がってきています。



籾摺り後のモミガラは、再び田圃へ。

お米100俵分の籾殻をトラックから袋に移す。これで、150mの暗渠1本分（150袋）のモミガラ。

2018.10.07撮影

この差異は何故か？ 今公表されている指数は9月に調査した茎の数とモミの着粒数から、例年の収穫量率を勘案して弾き出した収穫予想量だからです。しかし、今年は、その後の天候が思わしくなく、粒の太りが例年よりも悪かったことが考えられます。最終調査の発表時には「やや不良」以下と変更になり、生産者の実感に近づくと思われます。

ところで、「外国産米並の生産コストを目指せ」という農政方針に呼応して、今までの10アール9俵程度の収量を、12～13俵に引き上げる「先進的」な生産者が増えてきました。

効果的にコストを下げる方策は増収が早道です。彼らは、常にイネを栄養豊富にするため、化学肥料を多く施します。栄養豊富にするとイネは病気や害虫に侵されやすくなります。

このため幾種類もの農薬を数多く散布します。その農薬も、最近では種蒔き時に苗箱に施せば穂が出た後の病気にも効く、残効性の高い薬剤やイネの背丈を低くする薬剤まで出現しています。

これら増収対策の掛かり増し費用は10アール当たり1万円程度ですから、コストは2割引き下げられ、実際は、同値で売れるのですから、売上げ額は2割余り、利益では5割以上引き上げることが可能なのです。

前ページの多収穫栽培の減収が大きかった原因は、登塾期の悪天候で、多用した栄養素が光合成でデンプンに転化仕切れなかったという植物生理のメカニズムに由来したものです。

昨今の異常気象は、この米作り同様、すべての産業や生活の場で、コスト低減や利便性を飽くことなく求める人類へのしっぺ返しに他ないようです。



見事な柿
我が村自慢の
風景ゾーメン
緑地帯に及ぶ
柿並木に31の
柿は今日柿の
収穫は総出で
必要無しで済
みは種人総出
抜きは必要

お餅やリンゴ、手作り味噌などのご注文ありがとうございました。

☆**ご自宅用のお餅**などは、特にご指定のない場合は、**11月下旬以降のお米と同送**です。

☆お餅などの**お歳暮発送**は、特にご指定のない場合は、**12月上旬**にお届け予定。

☆**リンゴ**は、**12月上旬**に……**手作り味噌、大豆**は**1月下旬以降**のお届です。

発送時期や方法の変更は早めにご連絡をお願いします。